



薬害のない明るい未来へ！
8月24日は、

薬害根絶デー

1999年8月24日、厚生省はサリドマイド・スモン・薬害エイズなど悲惨な薬害の発生を反省し、薬害根絶のために最善の努力を重ねていくことを国民に対して誓う決意のもと、厚生省敷地内に「誓いの碑」を建立しました。

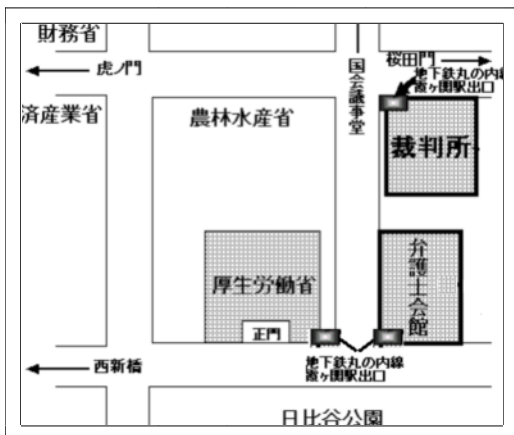
この「誓いの碑」を薬害根絶のシンボルとして、国や製薬企業が国民一人ひとりの命を大切にしているか、患者の人権を尊重しているか、医薬品の危険性に注意を払い適切な対策をとっているかなど、絶えず厳しい監視の目を向けていくことが、私たち国民の重要な役割です。



開催日：2009年8月24日(月)



- 9:30~10:30 街頭宣伝活動
- 11:45~12:55頃 厚生省前リレートーク
- 13:00~13:30頃 厚生省前庭・碑の前行動
- 13:30~14:00 パレード
- 15:00~17:00 集会(弁護士会館2階クレオ)
- 17:30~18:00 街頭宣伝活動



薬害オンブズパースンマスコット
「カナリアン」

薬害根絶デー実行委員会

☆カンパにご協力下さい☆

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-24-2
長井ビル3階 オアシス法律事務所内
TEL03-5363-0138 FAX03-5363-0139

東京都民銀行東新宿支店 普通 4033589
薬害根絶デー実行委員会会計 中川素充

(なかがわもとみつ)

こんなにあった日本の薬害

これまでに起きた薬害事件を一部紹介します。

1956年 ペニシリンショック
アレルギーによるショック死

1961年 サリドマイド
睡眠薬を妊娠中に服用し、手足や耳に奇形をもったこどもが産まれた。被害児は世界で数千人。日本で約千人。日本では、レント博士（ドイツ）の警告にもかかわらず、その後9カ月間も販売を継続、被害が倍増した。

1965年 アンプル入りかぜ薬
大衆薬で死亡者が多発し発売中止に

1970年 スモン
60年代から下肢の麻痺や視力障害などの末梢神経障害が多発。70年に殺菌剤キノホルムが原因と判明。被害者約1万2000人。1935年には副作用の警告があったのに、整腸剤として大量販売した。

1971年 クロロキン
抗マラリア薬による視力障害。被害者千人以上。

1983年 薬害エイズ
HIV（エイズウイルス）に汚染された血液凝固因子製剤により血友病患者等約1800人がHIVに感染。アメリカでは安全な加熱製剤が83年に実用化されたが、日本では85年まで危険な非加熱製剤が使用され続けたため被害が拡大。

1988年 陣痛促進剤
陣痛促進剤により、母子の死亡や重篤な障害を残す被害が続いた。医療機関に対する危険性の情報伝達が不十分で、安易に計画分娩をすすめたことが原因。

1989年 MMRワクチン
新3種混合ワクチンにより死亡者や重篤な障害が発生

1993年 ソリブジン
抗がん剤との併用で死亡者多数

1996年 薬害ヤコブ病
脳外科手術で使用したドイツ製のヒト乾燥硬膜がプリオンで汚染。100名以上がヤコブ病を発症して、植物状態の後に死亡。アメリカでは87年に輸入を禁止。日本での使用禁止は10年遅れの1997年。

2002年 薬害肝炎
止血目的などで血液凝固因子製剤を投与されC型肝炎に感染した被害者が全国5地裁で提訴。

2002年 薬害イレッサ
肺がん治療薬、発売直後から多数の副作用死。

2006年 薬害タミフル
インフルエンザの治療薬を服用した後、飛び降りなど異常行動や突然死で死亡。2007年、10代の子どもには使用禁止に。

薬害のない明るい未来へ